



立て心よ 行け私よ

No. 2

文責:

校長講話 墨坂中学校の清掃について



今日の話は3年前に行ったものが中心です。昨年度、清掃について考えてもらおうと投げかけたところ、今の2年生が学年集会で機会を作ってくれたので、2年生は1年生の時に聞いた話ですが、先日行われた生徒総会の重点活動の一つ目にある「自分と校舎を磨く無言清掃」とはどういふことを考えながらも一度聞いて欲しいです。1年生と3年生は初めてですので宜しくお願いします。

さて、墨坂中の3本柱。何ですか？ そうですね。「あいさつ」「清掃」「歌声」ですね。今日はその中の清掃について考えてみます。

今年度の重点活動の一つ「自分と校舎を磨く無言清掃」、先ほども触れましたが、このことについて次のような説明がありました。

「清掃に対する心構えや時間への意識を変え、清掃の時間で校舎を磨くと共に、自分たちの心を磨けるようにしていきたいです。」と。自分たちの心を磨くとはどういうことでしょうか。これからお話する内容をヒントに自分自身の中での答えを出してください。

さあ、この姿を見て、どう思いますか？クラスで数名発言しましょう。

この姿は3年前の2月、昇降口から南校舎に向かう廊下での3年生の姿です。卒業を控えた2月、そして3年生ということを知って何を感じますか？クラスで数名発言しましょう。

今日はこの姿について考えていこうと思います。あなたは清掃にどう取り組みますか？

これは今から 13 年前、平成 21 年度の姿です。当時の整美委員長の言葉を紹介します。「今年が墨坂中学校 50 周年であることから伝統の膝付き4回がけを確認しました。4回がけの意味、「自分のため 校舎のため 先輩のため まだ見ぬ後輩のため」を改めて理解しました。これでこの先も4回がけが引き継がれていくことでしょう。いや引き継いでいってもらわなければ困ります。」と語っています。



「今年が墨坂中学校50周年であることから伝統の膝付き4回がけを確認しました。4回がけの意味、『自分のため 校舎のため 先輩のため まだ見ぬ後輩のため』を改めて理解しました。これでこの先も4回がけが引き継がれていくことでしょう。いや引き継いでいってもらわなければ困ります。」



この写真は何か分かりますか？この校舎になる前の墨坂中学校です。これはその旧校舎の廊下です。何を感じますか？数名発言しましょう。

この写真は、そうです、旧校舎の解体時の写真です。今から 30 年前、平成4年のことです。そして今の南校舎が平成5年に完成しています。北校舎は平成6年に完成します。その旧校舎が解体された時のこと

を当時の先生が文章に残しています。



「平成4年5月解体予定の1,2年普通教室棟はすでに封鎖され、1,2年生は仮設のプレハブ生活が始まった。校舎の解体が迫ると何人もの生徒が封鎖された校舎に入りたいと教頭先生に直談判に来る。一目でも自分たちの教室を見たい、自分の座っていた場所にもう一度行きたいと言う訴えである。解体前日、部活動が終わっても何人かの生徒が鍵のかけられた普通教室棟の入り口で泣いている。私たちはこの木造校舎で卒業したい。どうか工事を延期してください。と泣きながら校舎にすがりつく生徒たち。なんという姿であろう。

何が生徒たちをそうさせているのか。管理棟や3年生の教室がある北校舎は翌年平成5年の5月に解体される。教師も生徒も残された木造校舎の床を必死になって磨いている。床を支える土台は腐っていてそこを通ると床がきしむ。しかし、鏡のように窓や壁を写し出す黒光りした床は善光寺にあるびんずる尊者のように崇高に見える。1,2年生が生活している仮設プレハブ校舎の床はベニヤ板である。雑巾がけをすると1週間と立たないうちに穴が開く。それでも、2年生はベニヤの床に向かう。1年生も見よう見まねで床を磨き出す。その思いが伝わったのか、ベニヤ板が光り出す。このプレハブ校舎も1年後には取り壊される。それでも磨き、ついに鏡のようにベニヤ板の床も窓を写し出した。生徒も教師もお互いに向かうものが床であったことは確かである。」という文章です。



この写真を見てください。今年の1月に撮影した写真です。校舎のどこかわかりますか？昇降口から南校舎に向かう廊下です。気づくことはありますか？各クラス数名発言しましょう。



光っていますね。これはワックスがかけられた光ではありませんね。この廊下を改めてみて何を感じますか。これもまたクラスで数名発言しましょう。

この校舎ができて今年で30年目。旧校舎の黒光りとまではいきませんが、29年間あなたがたの先輩が墨坂中の伝統である膝付き4回がけ清掃を行ってきた証がここにあります。30年目の今年の3年生も旧校舎と新校舎を磨いてきた先輩と同じように膝付き4回がけを2年間、毎日行ってくれました。長く受け継がれてきたバトンがこれ

からも続いていくことで、いつかこの校舎が解体される時、30年前の光景がきっと繰り返されることでしょう。

こうして見てくると、「自分のため 校舎のため 先輩のため まだ見ぬ後輩のため」と心の中で唱えながらの膝付き4回がけの意義・価値を改めて感じます。

あなたは清掃にどう取り組みますか？そして、自分の心を磨くとはどういうことか答えが見つかりましたか？この問いについて、クラスルームの「R5 全校集会」にフォームを上げておきましたので、自分なりの答えを見つけた人はフォームに入力してください。

これで今日の本題は終わりますが、もう一つだけ、考えて欲しいことがあります。この写真は昨年度の縦割り清掃の時の写真です。気づくことはありますか？箒が逆さまに置いてありますね。これをした生徒は、なぜこうしたのですか？こうした生徒にいつそれを教わったのかを尋ねたら、小学校の時と答えてくれました。きっとその小学校から来た人は自分も箒をこのように置いた経験があるのではないかと思います。話を戻しますが、なぜ、箒を逆さまに置いたのでしょうか？その答えを各クラスで確認し合っ、学級長が校長室にその答えを伝えに来てください。期限は明日の昼休みまでということでお願いします。以上で今日の話が終わります。

第 1 回生徒総会が行われました

5月10日(火)、今年度第1回目の生徒総会が行われました。春の生徒総会で、全校が一堂に会することができたのは4年ぶりです。全校生徒が「生徒会歌」を歌ってスタートしました。

第1号議案では、令和5年度の生徒会スローガンと重点目標が審議・承認されました。「焦点」「中心」という意味のある『Focus』という言葉に、墨坂中学校の生徒全員に「焦点」が当たり、全校生徒一人ひとりが「中心」となって活動することができる生徒会、全校生徒が楽しく過ごすことのできる学校生活を創り上げていこうという願いが込められています。

令和5年度生徒会スローガン

『Focus』～全校に焦点を 全校で生徒会を～
令和5年度重点目標(活動)

- ・「自分と校舎を磨く無言清掃」
- ・「他人の為に出来ること VS活動」
- ・「世界と自分の架け橋 SDGs」

第2号議案では、令和5年度の年間活動計画が、第3号議案と第4号議案では、昨年度の決算と今年度の予算が上程され、それぞれ、審議のうえで承認されました。それぞれの委員会で、スローガン「『Focus』～全校に焦点を 全校で生徒会を～」を実現するための活動が計画されています。全校生徒が、このスローガンが達成された実感できる活動をめざして、今年度の生徒会活動が進められていきます。

墨坂中学校では、重点目標「世界と自分の架け橋 SDGs」に関わって、生徒会総会の議案書は紙に印刷するの



ではなく、Google Classroom上にアップして共有しています。今回の総会でも、紙に印刷された議案書ではなく、一人一台端末を持ち込み、それを見ながらの生徒総会となりました。議案書以外にも、生徒会活動でのアンケートなども、Classroom 上で行っています。こうしたことは、コロナ禍以前には見られなかったことです。工夫と配慮でコロナ禍を乗り越えようとした3年間の経験が、ただ4年前に戻すのではなく、よりよい墨坂中学校の姿を創り上げるために活かされています。今年の墨坂中学校生徒会も、新しい伝統を書き加えてくれそうな、そんな期待をもつことのできる生徒総会でした。

学級文化づくり クラスでの協働的な体験学習

今年度の墨坂中学校では、個々の探究的な学びにつながる協働的な体験学習の充実を図っています。具体的には、総合的な学習の時間や学級活動の時間に、クラスごとにテーマを決めて活動します(クラス総合・学級の中核活動)。クラスで一つの活動に取り組むこともありますし、個々の問題意識からいくつかのグループに分かれて活動するクラスもあります。早いクラスでは、

- ハーブの栽培と販売・発電とイルミネーション・ピタゴラスイッチによる須坂市のPR
- 福祉・交流・ボランティア活動(パラスポーツ体験ほか)
- クラスで畑作りと百々川の土手の緑化活動(ひまわり・菜の花)
- 畑(農)から見る「よのなか」
- 学級の畑での栽培活動と販売活動に向けての製品作り。
- 調理活動(季節の食べ物の調理)
- 花壇に花を植える。行事の際の祝電のボード作り

といった活動テーマが設定され、実際の活動に入り始めています。クラスやグループの仲間と楽しみながら協力して活動しながら、個々のテーマを見つけてさらに深めていく予定です。



生徒等が性暴力の被害にあうことを防止するための校内職員申し合わせ

- (1) 放課後の教室、特別教室、体育館、準備室等、他者の目に触れにくい場所での生徒等に対する個別指導は、原則として一人で行わず、複数で対応する。
 - ・やむを得ない場合は校長・教頭等に連絡の上、指定された場所で行う。
- (2) 教室、準備室、その他諸室の管理等を適正に行う。
 - ・ドアの小窓などにポスター等の掲示物は貼らず、外から誰もが見えるようにする。
 - やむを得ず目隠し等を設ける場合は、室内で生徒等と1対1にならないようにする。
 - ・部屋を1人の教職員だけで管理することがないよう、原則として鍵は職員室での保管とする(鍵を個人で管理する場合、複数名が保管する)。
- (3) 生徒等に対する指導の際、安全確保等社会通念上認められるもの以外に身体接触は行わない。(首、胸、脇、腰、臀部、大腿部等を触る、抱きしめる。膝の上に乗せる等)
- (4) 生徒等を自宅に入れたり、自家用車に同乗させたりしない。
- (5) 保護者や生徒と、携帯電話やメール、LINE等のSNSで私的なやり取りを行わない。
- (6) 保護者や生徒との連絡は、原則として学校の電話を使用し、安易に個人の携帯電話等を使用しない。(メールやショートメッセージ等を含む)
- (7) 生徒等の自宅を訪問する際は、校長・教頭や学年主任等に事前に報告する。
- (8) 教育目的外はもちろん、教育目的でも生徒等の unnecessaryな撮影や録画をしない。
 - ・教育目的の撮影や録画であっても、公用の機材で行うことを原則とする。
 - ・個人の機材で撮影や録画を行った場合、速やかに校務用サーバーにデータを移す(個人のカメラやビデオにデータを残さない)。
 - ・個人の携帯電話やスマートフォンを用いて生徒の撮影や録画は行わない。
- (9) 教育目的外で生徒等に性に関すること(わいせつな内容や容姿、年齢、恋愛・性的な経験に関すること)を話題にしたり、質問したりすることはしない。
- (10) 性暴力(わいせつ行為)が疑われるときはもとより、室管理が不適正であったり、指導方法が不適切と感じたりするときは、躊躇することなく校長等管理職か相談窓口等に報告する。
- (11) 性暴力(わいせつ行為)にあった場合の相談窓口を、生徒及び保護者に周知する。
- (12) 性暴力をなくすために、加害者にならない、被害者にならない、傍観者にならないための教育と啓発を行っていく。職員研修も継続して行う。
- (13) 生徒等が性暴力の被害にあった場合の対応について、事前に教職員間で共有する。

以上の内容を、全教職員で共有いたしましたのでお知らせします。

性暴力(わいせつ行為)が疑われるときの相談・通報窓口(生徒、保護者対象)

○校内相談窓口

校長室(校長)・保健室(養護教諭)・職員室(教頭)

○校外 通報・相談窓口

① 学校生活相談センター

電話番号:0120-0-78310「なやみいおう」(無料)24時間受付

メールアドレス:gakko-sodan@pref.nagano.lg.jp

② 子ども支援センター

子ども専用ダイヤル:0800-800-8035(無料)

大人用ダイヤル:026-225-9330

[月曜日～土曜日 10:00～18:00(日曜日・祝日・年末年始は休み)]

メールアドレス:kodomo-shien@pref.nagano.lg.jp